



- 9月14日（土）に、「がんサバイバーを支援しよう」をテーマに、市民公開講座を行ないました。



## 【ミニ知識】

### ■がんサバイバーとは？

日本対がん協会では一度でもがんを経験した人（現在治療中の人から、5～10年経って治った人も含めて）をがんサバイバーと呼んでいます。

### ■がんサバイバーの現状

日本では現在、一生のうち2人に1人ががんとなる時代を迎えています。（年間100万人を越す人が新たにがんになる）

- ・ ところが、**がんになった人は強い疎外感、孤立感**、また、治療中は**いつ再発するか、という恐怖**にさいなまれる。
- ・ がんと診断されると、多くの人はインターネット等で必死に情報を集める → 玉石混淆の情報に翻弄される。

### ■講師

：垣添 忠生 先生

（国立がん研究センター名誉総長  
日本対がん協会会長）

約100名の方に  
ご参加いただきました！

## ■皆さまからのご意見

- ・ がんと宣告された方、その家族の方々に寄り添うことの重大さを改めて感じた講演会でした。
- ・ 自らの熱意ある行動で先頭に立って活動されており素晴らしいです。2人に1人がかかる病気、皆が力を合わせ支援が大切ですね。
- ・ 私自身もがんサバイバーです。周りの家族、知り合い、友人等には、ぜひ検診を！と進言し、私のような思いが1人でも少なくなるように…

## 【当院での取り組み】

### ■ 社会保険労務士による治療と仕事の両立支援相談会

→たとえばこんなこと…

- ・ がんと診断されたけど、仕事を続けたい
- ・ 病気のことをうまく職場に伝えられない
- ・ 治療と仕事を両立できるか不安
- ・ 今後の働き方について、誰に相談したらいいかわからない



### ■ ハローワーク出雲による長期療養者の就職支援相談会

### ■ がんピアサポーター相談会

### ■ かつろぎサロン（がんサロン）

etc…

- 10月は乳がん月間！！「ピンクリボン運動」を実施しました。

## 【カラコロ秋祭りに参加しました】



10/14（日）に開催されたカラコロ秋祭りに参加し、乳がん検診の啓発活動を実施しました。早期発見の大切さやピンクリボン運動の意義などを寸劇、クイズを交えてPRしました。

## 【公開空地がピンク色に…】



救急外来受付前の公開空地にて、乳がん啓発活動のシンボルであるピンクリボンを飾りつけました。

